



皆さんの声を市政に生かす

平成25年度 第42回

世論調査

結果報告

市は、市民の皆さんの意見や要望を市政に反映させるため、毎年世論調査を実施しています。その結果がまとまりましたので、概要を抜粋してお知らせします。

◆調査の概要◆

テーマ 「ごみの減量化とリサイクル推進」 / 「青少年の健全育成」

対 象 / 市内在住の満20歳以上80歳未満の男女3,000人

抽出方法 / 住民基本台帳から等間隔無作為抽出

調査期間 / 平成25年6月14日～7月1日

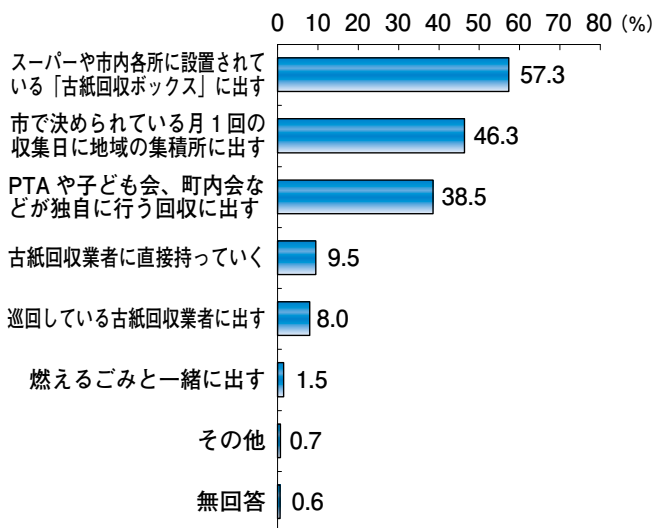
調査方法 / 郵送調査

有効回収数(率) / 1,750人 (58.3%)

※調査結果の比率は、百分率で表示し、小数点以下第2位を四捨五入してありますので、合計が100%にならない場合があります。

テーマ 「ごみの減量化とリサイクル推進」

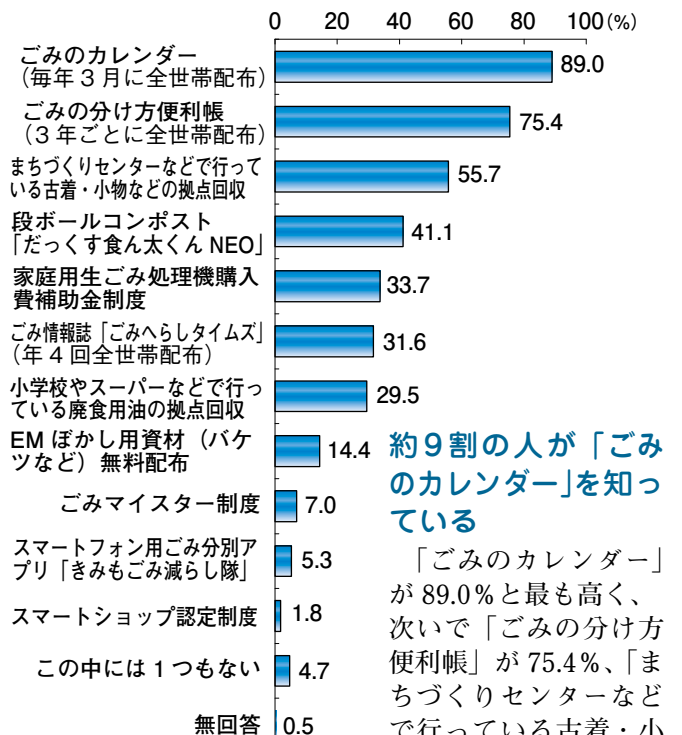
Q あなたのお宅では、古紙をどのようにして処理していますか。(複数回答)



「スーパーや市内各所に設置されている『古紙回収ボックス』に出す」が5割以上

「スーパーや市内各所に設置されている『古紙回収ボックス』に出す」が57.3%で最も高く、次いで、「市で決められている月1回の収集日に地域の集積所に出す」が46.3%、「PTAや子ども会、町内会などが独自に行う回収に出す」が38.5%になっています。

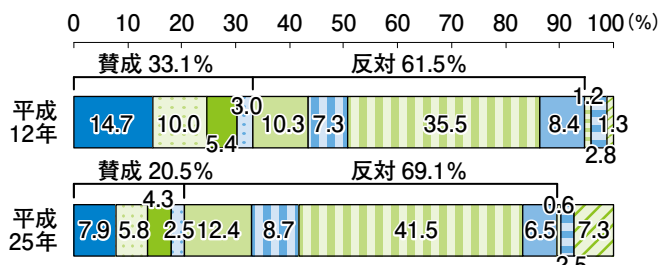
Q 市が取り組んでいる「ごみ減量やリサイクル推進」についての施策の中で、あなたが知っているものは何ですか。(複数回答)



約9割の人が「ごみのカレンダー」を知っている

「ごみのカレンダー」が89.0%と最も高く、次いで「ごみの分け方便利帳」が75.4%、「まちづくりセンターなどで行っている古着・小物などの拠点回収」が55.7%になっています。

Q ごみ処理の有料化についてあなたはどのように思いますか。



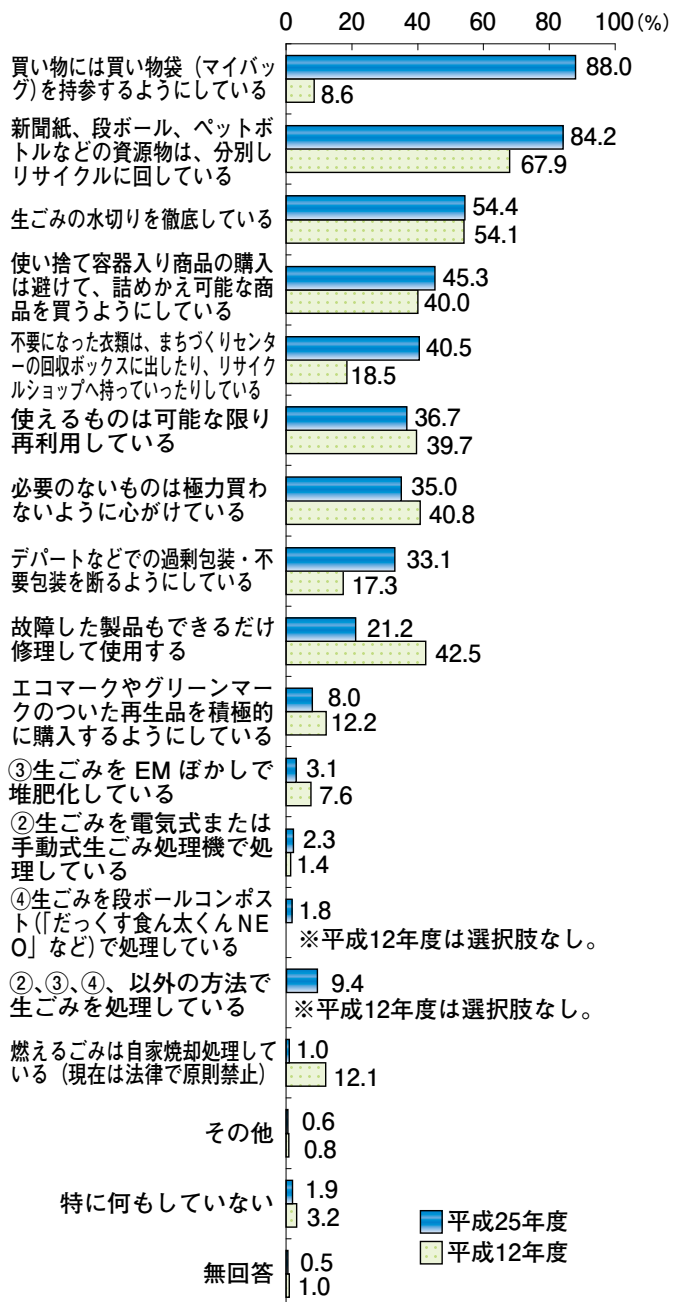
- ごみ減量化やリサイクルの推進に役立つのならごみ処理の有料化もやむを得ない
- 税金だけでごみを処理するのは、ごみをたくさん出す人とそうでない人と不公平になるので排出量に応じたごみ処理手数料の有料化を実施すべきである
- 市民生活が多様化しているのだから、できるだけ市民が面倒でないシステムにすべきでそれにかかる経費はごみ処理の有料化で対応すべきである
- ごみ処理は個人の責任だと思うから処理費を負担するのは当然である
- これまで無料だったのだから有料化には反対である
- 有料化してもごみの減量化にはならないと思うので有料化には反対である
- 有料化するとごみの不法投棄がふえるなど弊害が生じるので反対である
- 理由がどうあれ、税金を払っているのだから、ごみの有料化には反対である
- その他 ■ わからない ■ 無回答

反対派は約7割

「ごみ減量化やリサイクルの推進に役立つのなら、ごみ処理の有料化もやむを得ない」などの賛成派は20.5%にとどまっている一方、「有料化すると、ごみの不法投棄がふえるなど弊害が生じるので反対である」などの反対派は69.1%と多数を占めています。

平成12年度の調査結果と比較すると、賛成派は33.1%から20.5%と、12.6ポイント減少しています。

Q あなたのお宅では、ごみの量を減らすためにどのような工夫をしていますか。(複数回答)



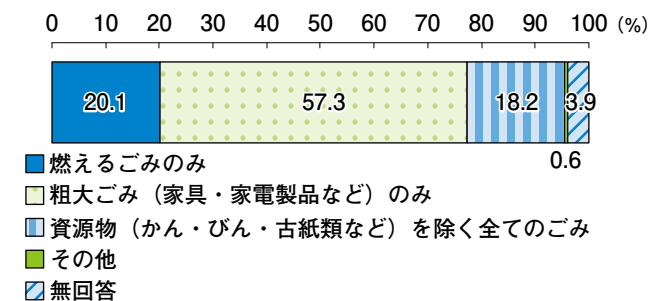
「買い物には買い物袋を持参するようにしている」「新聞紙、段ボール、ペットボトルなどの資源物は、分別しリサイクルに回している」が8割以上

「買い物には買い物袋(マイバッグ)を持参するようにしている」が88.0%、「新聞紙、段ボール、ペットボトルなどの資源物は、分別しリサイクルに回している」が84.2%と、ともに割合が高くなっています。

平成12年度の調査結果と比較すると、「買い物には買い物袋を持参するようにしている」が8.6%から88.0%と79.4ポイントも大幅に増加しています。

一方、「故障した製品もできるだけ修理して使用する」は平成12年度の42.5%から21.2%と、21.3ポイントも大幅に減少しています。

Q (ごみの有料化に「賛成」と回答した人) 有料化の対象となるごみは何が望ましいと思いますか。(複数回答)



有料化に望ましいと思われるごみは、「粗大ごみのみ」が約6割

「粗大ごみ(家具・家電製品など)のみ」が57.3%と半数以上を占めています。次いで、「燃えるごみのみ」が20.1%、「資源物(かん・びん・古紙類など)を除く全てのごみ」が18.2%になっています。